

京都府の気候変動（降水量）これから（中程度の温室効果ガスの排出が続く場合）

【京都府における年降水量、大雨・短時間強雨・無降水日の日数(回数)の将来予測】

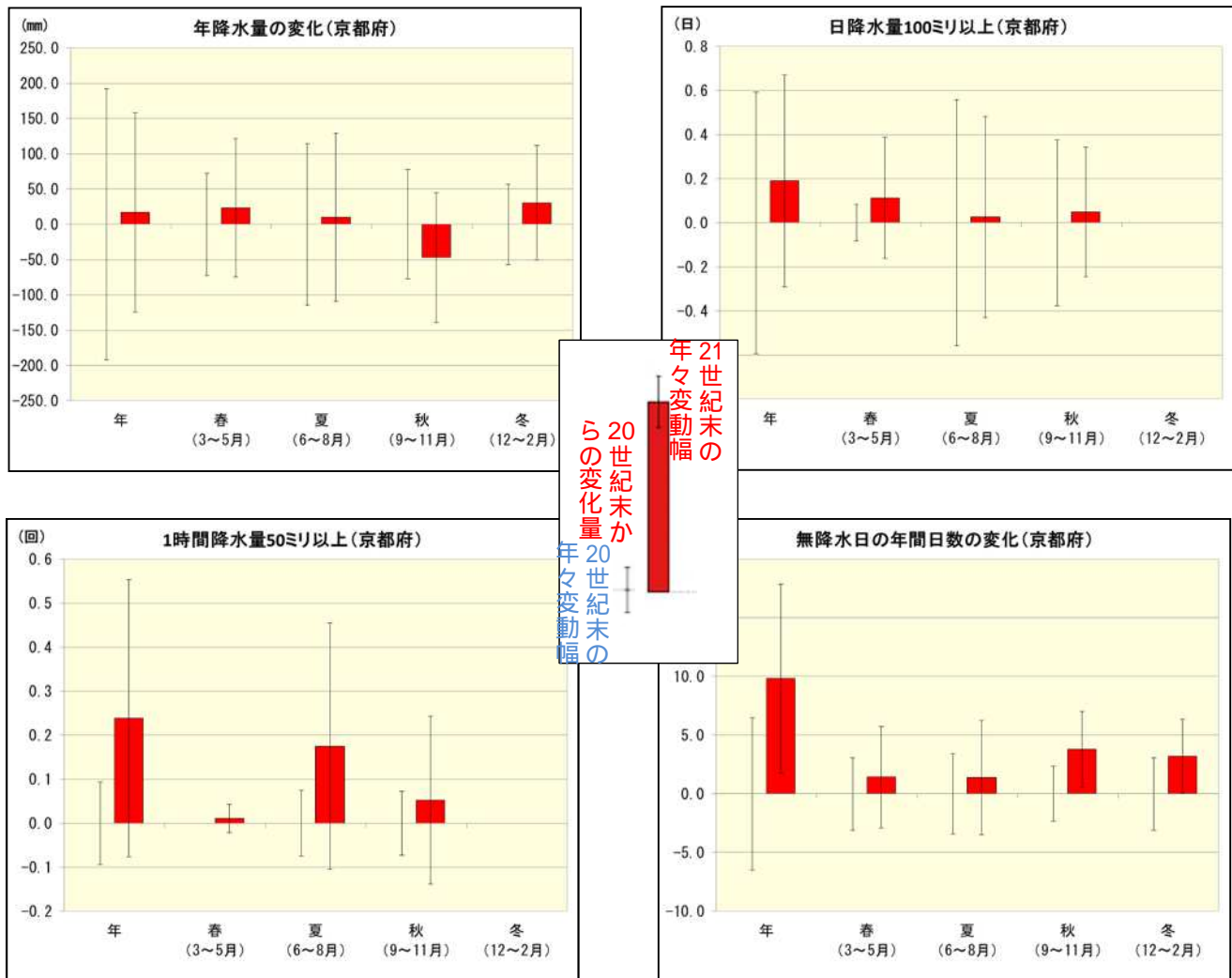
（将来気候と現在気候との差）

棒グラフは現在気候との差、縦棒は年々変動の標準偏差(左:現在気候、右:将来気候)を示します。

京都府における年降水量、大雨・短時間強雨・無降水日の日数(回数)について、20世紀末から21世紀末の変化を予測しました。

21世紀末における年降水量は、京都では20世紀末に僅かですが増加が予測されており、一方、季節別でみると秋季に降水量の減少が見られます。秋季において、降水量の減少傾向は全国的に見られ、無降水日数の増加予測が要因のひとつとなっているものと見られます。

日降水量100ミリ以上の(大雨)の日数と1時間降水量50ミリ以上の短時間強雨の回数の変化予測には、共に夏季の増加が顕著に現れているほか、20世紀ではほとんど出現が無かった冬季にも観測されると予測されています。その一方で、無降水日数の増加が予測されていることから、雨の降り方が極端化することがうかがえます。



21世紀末には、雨の振り方が激しくなる一方で、降らない日も増えてくることから、大雨による土砂災害、浸水害や洪水への備えに加え、湯水への対策も重要となってきます。